

消防新時代をデザイン

# 近代消防

# 12

DEC 2012

No.623

THE FIREFIGHTER

〈災害特報〉

日本触媒姫路製造所爆発火災事故の概要と教訓

「消防組織法第31条に基づく市町村消防の  
広域化に関する中間答申」について



〈全国消防最前線⑥〇〉 金沢市消防局  
奥能登広域圏事務組合消防本部



# 四国初 海水利用型消防水利システム導入

—10月15日 松山市消防局—



# 「窒素ガス圧エンジン・ゲート開閉装置」 展示説明会

—10月11日 クライシスマネジメント協議会—





流会には、消防関係者をはじめ、消防応援団が駆け会場を大いに盛り上げた。会場では団員同士の交流するとともに、互いに明日の健闘を誓い合った。また、では、消防団応援歌「消防団 三百六十五歩のマーチ」が発表され、水前寺清子さんがメロディに合わせ歌披露した。最優秀作品に選ばれた宮城県栗原市の後藤、後藤めぐみさんに対し、秋本敏文会長より表彰状品が贈呈された（写真左下及び中央）。最優秀賞にいた歌詞はP.40参照。

**消防120年 消防防災・物産展も開催** -10月7日-  
同日、「消防団120年 消防・防災展」が同会場の場で開催された。会場では、東日本大震災被災地支援に立った物産コーナーを設け、地域交流の場を兼ねたものとなった。防災展エリアでは防災関係企業・団体の物産展エリアでは、東北や関東近県、操法大会出場の団体の団体が出展し、地域の特産品や自慢の商品などを展示した。会場では、炊き出し訓練（日本防火協会・写真）や、大曾根餅つき保存会（山形県消防協会協力・写真中央）の餅が配られるなど様々な催しが行われた。

#### 消防協会がCTIF（国際消防救助協会）に加盟 -9月20日-

日本消防協会は9月20日、CTIF (Comite Technique International De Prevention Et DExtinction Du Feu、国際消防救助協会)に加盟した。加盟の承認は、スロバキア共で開催されたCTIF総会で行われた。この総会に、故文日本消防協会会長が出席し、挨拶を行った。

CTIFは、1900年に設立された消防・救助に関する国際ネットワーク組織。ヨーロッパを中心に39か国の消防協会が加盟する。加盟国の消防隊員・義勇消防隊員約500万人、青少年義勇消防隊員約65万人を擁する。国際競技会、ボジウム、青少年消防指導者や義勇消防等に関する委員会、ワーキンググループの開催等のほか、加盟国間で情報交換を行う。国際競技会については、消防オリンピック年に1回、青少年消防オリンピックを2年に1回開催しており、次回は2013年7月にフランスで開催する予定。消防協会は、2009年にチェコ共和国での青少年消防オリンピックに少年消防クラブのメンバーを派遣した。

#### 第4回全国消防職員綱引大会 -10月18日- グリーンアリーナ神戸-

第4回全国消防職員綱引大会が10月18日、神戸市・須磨グリーンアリーナ神戸で開催された。主催は全国消防連盟。主管は神戸市消防職員厚生会綱引部。後援は(社)綱引連盟、兵庫県綱引連盟等。全国各地から合計25チームが参加し、チャンピオンの部、チャレンジの部、ミッ

クス部の部（男女混合）の3部門で熱戦を展開した。チャンピオンの部では、金沢市消防局（左写真枠内）が優勝、神戸消防が準優勝、京都消防ろぶすたあが3位、長野市消防局が敢闘賞、チャレンジの部では、淡路消防綱引クラブが優勝、小松消防綱引クラブが準優勝、柏・羽・藤が3位、神戸男女ミックスが敢闘賞という結果となった。

#### 四国初 海水利用型消防水利システム導入 -10月15日 松山市消防局-

松山市消防局は10月15日、総務省消防庁から無償使用を受けた「海水利用型消防水利システム」「都道府県指揮隊車」「燃料補給車」を新たに配備したほか、同車両を格納する車庫が完成したことから、配車式及び落成式を行った。海水利用型消防水利システムは、ホース延長車と送水車で構成され、今年度4月1日に西消防署に発足した特殊消防隊が運用する。大地震や渇水時における消火栓等消防水利の使用が困難な場合をはじめ、コンビナート火災、木造建物が密集する地域における大規模災害等、大量の消火用水を必要とする火災に対して、遠方の海や河川、大型貯水槽などの巨大水源から災害現場に消火用水を送水し、消防隊の消火活動を支援するほか、水災害に対しての排水活動等にも威力を発揮する。写真上は、送水車で海水を給水し送水（左）し、化学消防車から放水（右）する状況。写真下右は配車式及び落成式の模様。

#### 「窒素ガス圧エンジン・ゲート開閉装置」展示説明会 -10月11日 クライシスマネジメント協議会-

クライシスマネジメント協議会は10月11日、東京・調布市の総務省消防庁消防研究センター南側副実験室で、「窒素ガス圧エンジン・ゲート開閉装置」の展示説明会を開催した。東日本大震災では水門閉鎖に赴いた多くの消防団員が津波の犠牲となったが、本装置はこの悲劇を教訓に、災害時に確実に水門を閉鎖するアイデアとして開発された。電気を動力源としての水門閉鎖はこれまでも行われてきたが、地震時には電源を確保出来ない事態が発生する。その備えとして非常用電源の確保が考えられるが、極めて大きな財政負担となる。この困難を克服したのが大気中の窒素を活用する本装置である。非常時だけでなく農業用水門の自動化への応用等、幅広い分野での活用が期待される。多くの地方公共団体関係者等がこの説明会に訪れた。写真下右はすでに活用されている「水道水圧エネルギー」の展示。クライシスマネジメント協議会 民間の企業や団体と行政機関（中央・地方）が連携し、大規模・広域災害に対処する社会環境の整備を目的に、有志によって平成22年9月に発足した団体。初代会長は石原信雄元内閣官房副長官、現会長は小嶋勝衛元日本大学総長・元日本大学理事長。



(中) 平成25年1月27日(日)、東京タワーで開催される第6回階段駆け上がりレース東京大会。主催・主管は日本警察消防スポーツ連盟。運営は Stair Race 2013 in TOKYO 実行委員会。後援は東京都。参加資格は公安職員及び消防団員。参加予定人員は130名。消防職員の部では、男子30歳未満、男子30歳以上40歳未満、男子40歳以上50歳未満、男子50歳以上、女子の各部で、全国の強者・猛者が、日頃から醸成する体力を競う(消防職員は防火服及び空気呼吸器を着装する)。エントリーは11月1日すでに開始している。参加希望者はとり急ぎ日本警察消防スポーツ連盟のホームページまで。

(文) 東京ビッグサイトで開催された、危機管理産業展(10月17日~19日)を取材してきました。今年も様々な地震対策、帰宅困難者対策等、災害対策関連の製品やシステムが多数紹介されていましたが、南海トラフの巨大地震の新想定が公表されたことも関連してか、津波対策の製品が多かったのが印象的でした。例えば津波対策として、大人4人まで入れて水に浮き衝撃にも耐えられるという「簡易シェルター」、併催されたテロ対策技術展でも水難被害者などを探索できるユニークな水中ロボットなどが数多く展示されていました。次号1月号で特集します。楽しみにしてください。

(石) 地震を想定した自主参加型の一斉防災訓練「ShakeOut(シェイクアウト)」が国内に広まりつつある。2008年に米国で生まれた同訓練は、訓練開始の合図とともに、Drop(姿勢を低く!)、Cover(体・頭を守って!)、Hold on(揺れが収まるまでじっとして!)という身の安全を守る行動を一斉に実施することを呼びかけるもの。今年10月に米国で行われた第5回訓練には約1,460万人が参加登録した。国内では今年3月から9月にかけて、千代田区、北海道、千葉市、名古屋市が実施し、計約14万6,000人が参加。どこにいても参加でき、防災リテラシー向上に有効。今後の普及を期待したい。

(五) 今月号の消防最前線は、金沢市、奥能登広域圏事務組合の各消防本部を紹介しました。今回は、この時期に合わせ

次号予告

《新春特別増大号》

- 〈新春特別鼎談〉 岡崎浩巳 消防庁長官  
秋本敏文 日本消防協会会長  
北村吉男 全国消防長会会長
- 消防法施行令及び同施行規則等の一部について
- 〈全国消防最前線⑥〉和歌山県内の消防  
特別付録「消防ダイアリー2013」

降雪時の対応や取組についてのお話をお聞きました。高層ホテルの屋外避難階段の件や積雪の多い地域の救急活動など、降雪の少ない地域に住んでいる私にとっては、とても貴重な内容でした。平成26年度には、北陸新幹線が金沢市まで開通するというので、今後、観光、ビジネスに新たな流れが期待されます。それに伴い、消防・救急に関する新たな取組も必要だと考えられます。今後の両消防本部をはじめ北陸地域の消防の取組に注目したいところです。

(萬) 消防研究センターで開催されたクライシスマネジメント協議会の「窒素ガス圧エンジン・ゲート閉鎖装置」の展示説明会を取材した(カラーグラビア参照)。東日本大震災で水門閉鎖に赴き犠牲になった消防団員の悲劇等を教訓に開発されたもので、災害時に電源が喪失しても、空気中の窒素を活用した圧力で、確実に水門閉鎖が出来るという装置だ。実際に模型の水門が動くのを目の当たりにして、メカに弱い記者にも得心がいった。同協議会では、各地域で早期導入を検討する水門の提供や、本事業に適した地域の企業の紹介を呼びかけている。

今月の広告

- (一社) 日本ガス石油機器工業会 .....表2
- ドレーゲル・セイフティージャパン(株) .....表3
- (株)モリタホールディングス .....表4
- アキレス(株) .....カラー1
- ヤマハモーターエンジニアリング(株) .....カラー10
- 国際技術開発(株) .....カラー11
- 湘南工作販売(株) .....カラー12
- (株)重松製作所 .....カラー13
- SEALEGS JAPAN GROUP .....本文65
- 帝国繊維(株) .....本文68
- 芦森工業(株) .....本文83
- (株)トレハクラブ .....本文116
- 防災士研修センター .....本文139
- 日本消防コンサルティング(株) .....本文142

近代消防

12月号 (No.623) 定価1,020円 (本体971円)

- 2012年12月1日 発行
- 編集人/堂端千秋
- 発行人/三井榮志
- 発行所/(株)近代消防社◎
- 印刷/(株)ユー・エス・エス
- 前金年間¥11,550 (新年増大号を含む)
- 前金半年¥ 5,520 (¥6,030 新年増大号を含む)
- 後金ご購読料 (ご所属で取りまとめた場合)  
・1部~4部まで定価(送料)・5部~10部まで70円引き(送料サービス)

■ お申込先 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目9番16号 (日本消防会館内)  
TEL/東京(03) 3593-1401番(代) 営業部 URL = http://www.ff-inc.co.jp  
3593-1416番(代) 編集部 E-mail = kinshou@ff-inc.co.jp  
FAX/東京(03) 3593-1420番 E-mail = toukou@ff-inc.co.jp (投稿用)

★本誌は毎月発行日前月の10日から発売しています。★落丁・乱丁の場合は、お取替致します。  
★本誌掲載の写真・記事の転用等を希望される場合は、弊社編集部までご連絡ください。  
★書店からお求めになれば高い送料がかかります。書店で取扱いがない場合は、直接弊社へ前金でお申込みになれば直送申し上げます。